

オピニオン・解説

教育のデジタル化に疑問

柳田 邦男

現論



やなぎだ・くにお 36年栃木県生まれ。東大経済学部卒。NHK記者を経て作家活動に。災害、事故、科学、医療問題などをテーマに執筆。著書は「マッハの恐怖」「新・がん50人の勇氣」など多数。

小中学校の教室の風景が、遠からず全く違ったものになる日がくるだろう。教師は電子黒板で授業をし、子どもたちは電子読書器「i Pad (アイパッド)」のような手元の電子機器を見つめ、電子ペーンで書きこみをする。

遠からずと書いたのは、政治・行政に影響力を持つソフトバンク社長の孫正義氏が「5年以内にやらないといけない」とぶち上げたからだ。7月27日、孫氏やマイクロソフト社長の樋口泰行氏ら業界主導で学者らも集めた「デジタル教科書教材協議会」の設立シンポジウムにおける講演だ。

デジタル教科書とは、教科書も副読本などの教材もテストの問題も、すべて見ることでできる小型映像端末のこと。動画も見られる。もう教科書はいらない。ここではその機器を仮に「e Pad」と名付けよう。

教師はe Padと同じ画面を電子黒板に映し出して授業をし、e Pad上に問題を出す。教師はパソコンで一人一人の取り組みをチェックして、行き詰まっている子を見つけると、すぐにそばに行き指導をする。

デジタル教科書教材協議会は、「すべての小中学生にデジタル教科書」という目標を掲げている。孫氏は「2015年には、全小中学校に配備する必要がある」と力説した。目的は何かというと、日本の国際競争力を取り戻すには、分析能力と競争心を強くする教育が必要で、そのためには教科書が魅力的で感動的なものにするということも、教師が子ども一人一人の理解力をその場でとらえて指導する学習環境を整える必要があるというのだ。

新たな収益源

だが結構すくめの話には、「ちょっと待てよ」と一歩退いて考えてみると、落とし穴にはまる危険がある。勝ち組企業戦士を育てるのが教育なのか。動画のある面白い教科書→感動→分析能力・競争心が育つ→日本の国際競争力増大、という図式には論理的に飛躍があり過ぎる。

パソコンなどのない時代に育った私の「分析能力」をすぐに刺激

したのは、全小中学生にe Padを持たせることが企業にもたらす収益効果の側面だ。全国の小中学生は約1千万人。教師用や高校、大学への波及効果を含めると、マーケット人口は教育界だけでも2千万人を超える。e Padの値段を仮に1台2万円とすると、4千億円のマーケットが創出される。

孫氏と言えは、08年に児童生徒がケータイで不良サイトにアクセスするのを禁じるため、政府がメーカーにフィルタリング機能を付けるのを義務づけようとした時、国会審議の参考人として、「ケータイの規制は」包丁が危険だからといって台所からなくすようなものだ」という趣旨の理屈にならない理屈を述べて大反対した人物だ。それでも影響力を持つのは、成功者の迫力と財力を基盤にした政官学巻き込みの活動だ。

民主党政権の原口一博総務相は、すでに昨年末、学校教育のデジタル化構想を発表し、今回の協議会発足の席でも孫氏の構想に賛意を語った。新成長戦略にも言う。この調子だと、「議論より実験」という孫提言によって、教育のデジタル化は本当に5年で進められる可能性が高い。

生身の関係を

それだけでなく、子どもたちはケータイ、ゲーム、パソコンという電子機器とはかり接して、生身で親子や友達同士で一緒に過ごして、人間関係を築いたり相手への思いやりの感性を身につけたりする機会が少なくなっている。結果、人格形成にゆがみのある子が増えている。

くしくも協議会発足と同じ7月27日、秋葉原無差別殺傷事件の加藤智大被告が東京地裁の本人質問で、暴走した理由について、ネットばかりに依存する生活をしてきたことや、自分を言葉で表現するのが不得手で怒りを粗暴な行動で示す傾向があったことなどを、反省をこめて語っていた。

ついに学校でまで、かけがえのない人間形成期の子どもたちが多くの時間を電子機器とはかり向き合う時代になった時、ゲーム感覚そのままに、自己中心で勝ち抜くことばかりを考える人間を生み出すことにならないか、今こそ教育現場で議論すべきだ。

(ノンフィクション作家)